

編集/コンビニの会事務局  
連絡先/〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431  
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人  
コンビニの会

定価/150円  
昭和54年8月1日第三種郵便物認可

第112号



## アジアの笑顔にまなぶ

写真家 長谷川友子

会報の表紙がカラー印刷になって、初めて  
貢献できそうです。昨年十一月にパリへ行  
きました。何としても、今回の会報の表紙は  
パリのきれいなカラーの写真で！

表紙の写真は、クリスマスシーズンの屋台で  
す。クリスマスイルミネーションで美しく彩  
られる、シャンゼリゼ通りのブランド品のお  
店が途切れた所からコンコルド広場までの間  
に沢山並びます。

パリへは、一年おきに開催される写真のイ  
ベントへ毎回でかけます。歴史に名を残した  
写真家のオリジナル写真や、写真はフィルム  
からデジタルが主流になり、絵画なのか写真  
なのか分からない、新しい作品も見ることが出  
来ます。

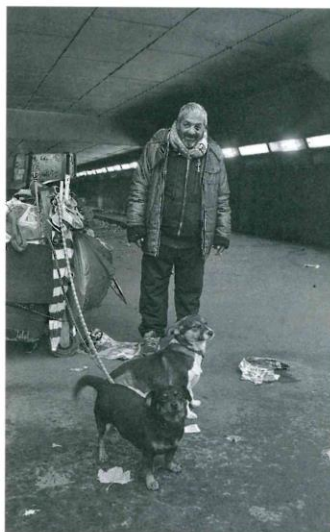
セバスチャン サルガドという政治難民の暮  
らしを撮っていた有名な写真家があります。今  
回、野生動物や自然を撮った美しいモノクロ  
作品を見る事が出来ました。これまでの彼の  
写真は、とても厳しい場所と環境の中での撮  
影だと分かります。

(次頁へ)

彼は70才を過ぎました。歳を重ねた彼は何を作品にするのだろうか。なるほど、野生動物を撮影するためには、かならず運転手とガイドが一緒です。

ちょうど一年前は、ソチオリンピックでした。そして、パラリンピックが始まる頃、そこから遠くないウクライナで政治不安が起き、南部のクリミアにロシアが介入し、それを批判する欧米がロシアに経済制裁を発動。それに対してロシアは、欧州からの野菜や果物の輸入をストップ。輸出が出来ない欧州の生産者は、余剰により値段の下落が起きている。その後、ロシア通貨のルーブルが下落しました。

また、武装テロリスト組織が活発になり、イラクとシリアに「イスラム国」が、「パキスタン・イスラム戦線」やナイジェリアの「ボコ・ハラム」など、市民が犠牲になる出来事が昨年から多発し、自国から逃げ出す難民が増えています。今や世界の出来事は、日本に関係ないという事はありません。早く収束する事を祈るばかりです。



フレンドリーな  
パリのホームレス？

### 雑記 ごまめの歯ぎしり

#### 「骨粗しょう症」

ずうっと以前のことだが、健康診断の時にたまたま骨密度の検査を受ける機会があった。測定結果はまさに日本人女性の平均値そのものの78です。すでに黄色信号が点つていて、それは即ちそう遠くない将来危険ゾーンに突入することを意味していた。

骨密度とは20〜44歳の平均値を100とした場合の骨量の割合のことで、80以上なら安全、70〜80は要注意、70未満は骨粗しょう症ということになる。

その後検査の機会はなく、何となくその事が頭の隅に引かかったまま時が過ぎて行った。2年前子宮がん検診を受けに行った折、これもたまたま婦人科の待合室で骨粗しょう症検査のポスターを見つけた。やっと巡り会えたと思いつつそく測定してもらったのだが、結果はやはり同年齢の平均値とほぼ同じ73であった。ドクターは熱心に予防のための薬を勧めてくださった。しかし薬なんて絶対に嫌だと思ふ私は本気になって自力回復を考えることにした。

骨粗しょう症対策はカルシウムと骨を刺激する運動とビタミンDが大事だということとは以前から知っている。牛乳の苦手な私はまず手始めに毎朝の紅茶にスキムミルクをたっぷり入れることにした。ビタミンDについては幸いなことに、ちょうどその頃小さな家庭菜園を始めていたので日光は十分ではないかと思っている。問題は運動なのだがとても十分とは言えなかった。悩んでいたところ、インターバル歩が足の筋トレにいいことを知った。これは骨のためにもいいかもしれないと思ひ、毎日の買い物行き帰りに時々自転車を降りて3分間の速歩を取り入れていた。そんなこんなの努力の結果、今回の測定値は75まで回復した。すっかり気を良くした私はますます健康オタクに拍車を掛ける毎日である。

(会報委員 大島 伊久代)

連載シリーズ

### 看取りの支援

(先回までのお話)

64歳で太陽の里にやつてきた徳さんは、園部さんを「親方」と呼び、信頼関係を築いていった。ある時、徳さんに胃がんが見つかり、すでに手の施しようの無い状態と医師から聴く。園部さん和其他の職員は、徳さんの人生を振り返る時間をつくろうと決めた。そして徳さんの生い立ちをたどり、幼い頃生き別れた「兄との再会」を果たした。最後の一泊旅行を企画し日光江戸村へも出かけた。

しかしその後、嘔吐、内部出血による貧血が続き、「最期まで施設にいたい」と願っていた徳さん自身が希望し、十一月末には入院した。入院後は麻薬である鎮痛剤の投与が続いた。それが体調の悪化を早めたが、信頼関係がで

きていた医師が中心となり、徳さんに寄り添って日々を過ごした。

十二月二十日、容態は急変。狭い集中治療室に十数人の職員が入れ替わり立ち替わりで徳さんを囲んだ。園部さんだけは、感情を抑えきれなくなると病室に入れずにいた。

息も絶え絶えの中、生きることを懸命に頑張っていた徳さん。しばらくすると病室から園部さんと呼ぶ声。

園部さんはしっかりと面と向かい、声をかけた。「徳さん」。

そして続けた。「もういいよ、徳さん、十分頑張ったよな、徳さん」。

徳さんは軽くうなずいた。その瞬間、徳さんの胸が大きく膨らみ、徳さんが自分の意思で息をすることを止めた。生きることを止めた。

後日、徳さんのそばにいた看護師が教えてくれた。園部さんには聞かえなかったが、「最期のその瞬間、徳さんが『園部さん…』と一言、言うていたんだよ」と。

『TOMO 2012年5月号より転載』

待ってるからねえ

また明日…

太陽の里（埼玉県）

施設長 園部 泰由

2004年12月、一人の利用者が逝去されました。「徳さん」の愛称でみんなから慕われていた山崎徳次郎さん（仮名）です。病気の発覚から亡くなるまでの4カ月間、ケース担当職員とともに、彼の最期に よりそい続けた園部泰由さんが、その胸の うちを語りました

■徳さんが待つてるから

徳さんの葬儀はお金も

無かったので、みんなで

お金を出し合って執り行

なった。通夜の参列者に



振舞うオードブルも厨房職員の手づくりの

ものだ。通夜には「徳さんが寂しがらない

ように」とみんなで泊まりこんだ。突然の

入院だったので里の利用者たちやお別

れをすることはできずじまいだったが、最

期のお別れはみんなできたとと思う。

徳さんの死去から数年が経って、わたし

は、法人の将来構想事業の一つである太陽

の里改善事業を進める専従職員となった。

開所して十数年が経過し、老朽化した建物

の改築と、別棟の増築を進めようという数

年がかりの事業だ。厳しい局面も多々あつ

たが、そんな中でも足元がぶれることなく、

昨年度中に事業に一定のめどをつけること

るまでもっていったのは他ならぬ、徳さん

のおかげだと思う。

「待つてるからねえ、また明日」と、徳

さんはいつもわたしに声をかけてくれた。

そして徳さんは今もなお、ここ太陽の里で

待つてくれている。「徳さんの待つ、この

太陽の里をもつと良くしたい」という、そ

の思いに支えられて、わたしはこれまで頑

張ってこれたのだ。

ケース担当の栗原さんが、徳さんのケー

ス資料にいつも書いていた

言葉がある。それは「ひ

とつの方向」「ひとつに

なつて支えていきたいんで

す」という言葉だ。



ひとつになるというのは、決して声の大

きな一人の指し示す方向にみんなが従うと

いうことではない。その過程の中で、みんな

がそれぞれの思いを出し合い、論議をし

て、最終的にひとつの方向に向かうという

ことだ。利用者の葬式の場に、普段顔も合

わせない親族がやってきて「あれ、親族が

いたんだ？」というのではない。徳さんの

ために、文字通りみんながひとつになって、

それぞれのできる最大限の努力をした。そ

れが、今の太陽の里の財産になっているの

ではないだろうか。

実践は職員をひとつにする。実践を通し

てひとつになることで、運動でも団結でき

る。自分たちが普段の仕事のなかで、障害

のある人を中心におかなくてははいけない根

拠は、きつとそこなのだろうと思う。

★TOMOの記事を読んで★

最期によりそう

社会福祉法人 エゼル福祉会

通所部 主任 溝口 愛

私事ですが、私も3年前に父を癌で亡くしました。父の希望で、最期は家族全員で自宅で看取りました。ほぼ寝たきりの状態になり、栄養も点滴のみ、排泄もオムツでしなくてはならず、本人も介護する母もとても大変だったと思います。しかし、希望通りに最後の数カ月間を一緒に過ごせたことで、大変さや喪失感以上に「最期まで一緒にいられた」「本当に良かった」という満足感のようなものを私たちが家族は得ることができたと思っています。

エゼル福祉会が24時間365日の支援を始めている以上、毎日の生活の先にある「死」というものに向き合うざるを得ないときが必ずやってきます。そのときに、少しで

も「よかったね」と言い合える最期を迎えることができるか？仲間も家族も職員も、だれもが孤独でない状態で最期を迎えられたら幸せだと思います。どう死ぬか？はどう生きたか？ということです。「二人ひとりの笑顔を増やし、周りの人と共感の輪を広げていく」という自分たちの役割や、日々の実践の目標も全てつながっているのだと改めて思いました。仲間の願いに寄り添えているか？自分たちの支援のあり方を問い直したいと思えます。

「死」と向き合う為に…

社会福祉法人 エゼル福祉会

生活支援部 副主任 渥美 匡史

「徳次郎さんにとっての園部さん、園部さんにとっての徳次郎さん」ふたりの間にある絆、深い結びつきを強く感じながら記事を読ませていただきました。徳次郎さんに対しての強い思いからの行動や葛藤。大好きな園部さ

んにだから言えたのかもしれない徳次郎さんの言葉。死に向かっていく中でそれぞれの立場で大事にしてきたことがとても凝縮されて書かれていたように思います。繰り返しながら、私が経験してきた「死」、喪失感を何度も何度も思い返しました。懐かしい思い出と共によみがえる顔もあれば、辛く胸が締め付けられる感覚に襲われる記憶もありました。受け入れたつもりでも昇華していかない死、に対して向き合う大事な時間をもらえた気がします。

私にとっての徳次郎さんは誰かいるのかな？と思ひ、利用者さん一人ひとりの顔を見たい浮かべていると、利用者さんが親御さんを亡くした時のことを思い出しました。私にとっては利用者さんの死はまだ現実的ではないのかもしれませんが、それよりも親を見送った彼らにしっかりと寄り添えていたのか、これから迎える喪失感を一緒にどう共感し共有していけるのか、ということの方が身近に考えられる課題なのだと思います。

# 2014クリスマス会

12月13日(土) イーブルなごやでクリスマス会を開催しました。  
今年も名古屋聖書バプテスト教会聖歌隊の透きとおる声で幕開けです



ウィルのお菓子販売

自身の自立生活スタートを紹介して開会宣言(塩澤さん)



イオン・ワンダーシティサンタさんとWAON君からプレゼントをいただきました



- ご寄付・ご支援いただいた皆様(順不同)
- 株式会社 東海電気システム
  - 代表取締役会長 増田修様
  - イオンワンダーシティ様
  - 愛知銀行 小田井支店様
  - 大垣共立銀行 小田井支店様
  - 高橋会計事務所様
  - 株式会社カミヤマ印刷様
  - G Tソリューション株式会社様



(7)

Ritz(リッツ)



今年も楽しい演奏をお楽しみ！



おめでとう！一等キヤッスルホテル、ラン千巻



やった～  
お米当たった！！



## お楽しみ大抽選会



エゼル福祉社会員の増田氏が当選番号を読み上げると次々と大きな歓声があがりました。

当選者は満面の笑みで景品を受け取り、約200名の参加者で会場は最後まで盛り上がりました。



当日ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。(順不同・敬称略)

山内 良介 間瀬 敬人 青木 美乃 葛山 聖菜 小川 阿弓 加藤 結 サントスエリカ  
青木 政治 桑原 諸彰 伊藤 将宏 大石 寛子 渡辺 千種 森田 衛 村瀬 果緒里  
池谷 有莉 板倉 真悠 丸田 香織 東原 光江 井上 祐子 長谷川パンダ(司会者)  
長谷川友子(カメラマン) 戸畑 佐知子(朗読ボラ)

### 新年明けまして

おめでとうございます

社会福祉法人 エゼル福祉会

理事長 大川美知子



### 新たな年を迎えて

皆さま、新年おめでとう御座います。

年の瀬におせち料理を作りながら過ぎて

行った一年を思い巡らして居りました。

春から夏にかけて産休、育児休暇のために

不在となっていたベテランの女性職員二名

が復帰し、復帰を心待ちにしていた生活支援

部に安堵感が広がりました。

通所部門は一昨年から施設長、現場総合主

任を配置して、現場の管理体制を整えており

ましたが、生活支援部はそれが出来ないまま

職員全員で手分けして役割を担う一年が続

いていたのです。

育児休暇明けの復帰を待って、麻生を部門

全体の責任者とし、榊原、若林を主任に渥美

北林を副主任に任命し組織として機能する

ための準備が整いました。

### 年末の会議で

昨年の12月に生活支援部の全職員が一

年を振り返って総括を書いてくれました。

1、人材（ヘルパー）の確保について

2、人材の個別育成（OJT）について

3、ホーム入居者の健康管理について

4、親元を離れて暮らしている障害のある

方々の生活の変化について

5、これから親元を離れて暮らす方々の準

### 備について

6、ショートステイの現状について

など10数項目に及ぶ総括に目を通し、一日

を費やして行われた話し合いにも参加させ

て貰いました。職員一人一人は、障害のある

仲間達が抱えている問題を実に良く観てお

り、障害のある人へ

の共感力も豊かに

育っていると感じま

した。

もう一歩だと思った

のは、解決する方法

について一部の職員だけが提案し、殆どが問

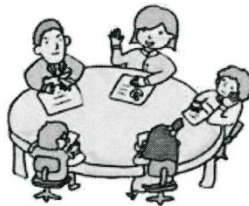
題の提起に終わっていたことでした。

### 一番多い悩みは

先ず、職員全員が口を揃えて語るの「人

手の確保と育成の難しさ」です。

ハローワーク主催の就職フェアにブス





を出しても面接にに応じてくれる求職者が殆ど居ないと言う異常事態が医療・福祉分野では二年以上も続いているのです。

肌で感じているのは、勤務の合間に行われている大学での募集チラシの配布に関心を示す学生が極端に少なくなっていることだと言います。

後輩職員やアルバイトヘルパーの育成については、障害のある方の気持ち（ニーズ）の受信力について、どのように伝えれば理解して貰えるのかが分らないと言う育成（コミュニケーション）の難しさ。

そのような厳しさの中にあつて、人手を得て人を育てて行くことがどれほど重要で、その結果が障害のある人達の支援の「量」や「質」に繋がっているのだと言うことは職員全員が切実に感じていることが伝わって来ました。

「当たり前でしょう！」と言う声が聞こえて

来そうですが、人材の確保と育成は理事会や管理職の責任だとするのが一般的で、職員全員が求人や育成について、これほどの切実さを持つている姿をこれまでに見たことがありませんから、問題意識の高さに驚きました。自分を振り返ると、問題を深刻に感じ、その深刻さが頂点に達した時に弾けるように「行動」に繋がった記憶があるので、解決する力や提案力まであと一歩だと期待しています。

内向きにならないように

「このままでは、お母さんの体力がもたないかも知れない」と、家族に依る介助力の限界を総括で指摘した職員が居ました。

パルハウスを建てる前は「このままでは家族が倒れる」「このままでは介護放棄が起きるかも知れない」と言う危機感が職員から度々出されていました。

職員の危機意識と親からの SOS に押される格好で、パルハウスが建てられ、それ以降は親元を離れて暮らす障害者の暮らしを守ることを第一義として支援を提供することになりました。

退職者が出て職員数が減る、学生ヘルパーが集まらないなどの問題が生じると親と同じく居している仲間達への支援を制限せざるを得なくなるのです。介助に明け暮れる母親に休息を提供することを目標としていた時代には、もつと家族のニーズに敏感だったと思います。

大学でのピラ撤きと同様で外に目を向けることは、私を含めて集団の意識を高めることに繋がると思いました。

NPO コンビニの会で次の暮らしの場を作る話し合いが始まりました。新たな年にこの話し合いが前進することを願っています。



## 事務局コーナー

## 「ご協力ありがとうございました」

11月～12月（敬称略・順不同）

★ ご寄付いただいた方々

## (NPO 法人コンビニの会)

金岩治子・鈴木岸子・黒崎とし子  
伊與田聡登史・アイ・匿名  
※会報購読料1万円以上お振込みの方を含む

## (エゼル福祉会)

伊藤夢子・山田美治・ウイル親の会

## (クリスマス会 寄付者)

伊藤勤也・市岡幸隆・神谷佳広  
松原伸二・宮川優子・佐々木正和  
大嶋千波・内田恭史・大島伊久代  
堀江良子・荒川正博・山田肥名子  
寺澤慶英・榊原芳典・溝口 愛  
大川美知子  
西尾知己・渥美匡史・渥美道恵

★ 物品寄付をいただいた方々

## (コンビニハウス)

世古卓夫・本田 真・早川直子  
浅井宏紀・植田正章・馬淵裕子  
石井好文・辻本道子・高塚朱美  
伊藤 学・塩澤しのか

## (WILL)

山田智子・中谷暢宏・塩澤しのか  
佐藤慶太・浅井宏紀・宮田まどか  
林 勇輝・丹羽恵子・河田笑子  
GTソリューション株式会社  
安達商店

★ 活動にご協力いただいた方々

## (コンビニハウス)

伊奈晶子 石原正寅 青木政治 芝田真理子  
辻本道子 桑原諸彰 黒田隆広 林 和子  
高塚朱美 青木美乃 加藤 結 酒井まみ子  
間瀬敬人 中谷友紀 山内良介 藤村亜子  
葛山聖菜 山前諒汰 水野裕之 臼井裕香  
河合尚武 小川阿弓 山崎直人 寺田みどり  
水野裕哉 竹内恵子 藤井梨沙 稲垣ゆき奈  
東原光江 田口陽介 山内麻衣 高橋なおえ  
石原優花 伊藤沙樹 山口愛加 茂手木利典  
神取優香 森島千絵 峯 彩奈 名和佑記  
辻本有沙 鍵谷美奈子 高田よし子

## (WILL)

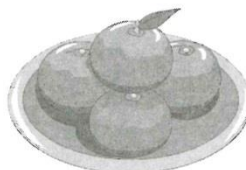
森田 衛 武部 文 梶田明宏  
須田たみ子

## (クリスマス会 お弁当づくり協力者)

堀江良子 大島伊久代 藤田ます江  
松岡香代 角田季玖美 野崎百合子  
岡田節子 佐藤美紀子 吉田嘉子  
半田素子 黒崎克己 澤 幸子

★ 会報発送ボランティア

佐藤美紀子 吉田嘉子 半田素子  
高松陽子 大嶋千波



ハウス・ウィル

## カレンダー



## 《活動状況》



## 11月

- 3日 全職員研修
- 6-7日 相談支援従事者 研修 (有満)
- 14日 理学療法 研修
- 20日 会報発送  
暮らしの場交流会 (若林・馬淵)
- 20-21日 サービス管理責任者 研修 (寺澤)
- 22日 エゼル福祉会 理事会・評議員会  
東海グループホームスタッフ研修会  
(馬淵・北原)
- 24-25日 障全協 全国大会  
(榊原・若林・牧野)
- 27日 WILL 親の会

## 12月

- 1日 理学療法 研修
- 2日 会報会議
- 6日 就職フェア (榊原・溝口)
- 11日 サービス管理責任者 研修 (吉兼)
- 12日 理学療法 研修  
名古屋生活支援事業所連絡会 学習会  
(大川・榊原)
- 13日 クリスマス会
- 16日 ボラマッチ説明会 (木村)



## クリスマス会収支ご報告 2014/12/13

(単位:円)

収 入			支 出		
明 細	寄付のお品	現金	明 細	寄付のお品	現金
1 クリスマスチケット売り上げ 122枚		119,900	1 会場運営 イーブルなごや会場代等		53,840
2 寄付金 ご支援いただいた企業様 4社 ご支援いただいた個人様 3名 役員一同		149,200	2 舞台演出備品		18,619
3 寄付のお品 ご支援いただいた企業様 4社	ホテル食事券 ハム詰め合わせ お米 カップ麺 サンタミニタオル BOXティッシュ コーヒー お茶		3 お弁当材料費		28,934
			4 出演謝礼費等		85,703
			5 旅費交通費		8,570
			6 その他、雑費 景品追加購入(ステーキ肉・カップ麺) 飲み物追加購入・お土産お菓子等		47,104
			7 抽選会の品	1等 ホテル食事券 2等 ハム詰め合わせ 3等 お米 4等 カップ麺 5等 サンタミニタオル 5等 BOXティッシュ	
			8 参加者様へ飲み物	コーヒー お茶	
合 計		269,100	合 計		242,770

※差引残高は公益事業会計に繰入します。

差 引

26,330

## クリスマス会に集まった皆さんの笑顔



### 銀行口座

三菱東京UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

郵便振替口座 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する  
特定非営利活動法人

〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431

**コンビニハウス** Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

**コンビニの会**

理事 宮川 優子

URL <http://ezeru.sakura.ne.jp/>

E-mail [convini@beach.ocn.ne.jp](mailto:convini@beach.ocn.ne.jp)